

本郷真紹教授 略歴・主要研究業績

略 歴

学歴

- 一九五七年二月九日 大阪府大阪市に生まれる
- 一九七六年三月 大阪教育大学附属高等学校卒業
- 一九七七年四月 京都大学文学部入学
- 一九八一年三月 京都大学文学部史学科国史学専攻卒業
- 一九八二年四月 京都大学大学院文学研究科国史学専攻博士課程入学
- 一九八七年三月 同学修退学
- 二〇〇四年三月 京都大学より博士（文学）の学位を授与される

職歴

- 一九九二年四月 富山大学人文学部助教
- 一九九六年四月 立命館大学文学部助教
- この間、立命館大学人権問題研究委員、立命館大学大学教育開発・支援センター委員などを歴任
- 二〇〇〇年四月 同教授
- この間、立命館大学アドミッションズオフィス室長、立命館大学教学副部長、学校法人立命館常務理事（初等中等教育担当）、学校法人立命館副総長、文部科学省中央教育審議会作業委員、全国大学入学者選抜研究連絡会議企画委員、文部科学省国立大学法人評価委員会臨時委員、学校法人立命館総長特別補佐、学校法人立命館理事補佐（現在）、文部科学省国立大学法人評価委員会大学共同利用機関法人分科会専門委員（現在）、京都市社会教育委員（現在）などを歴任

学会役員

日本史研究会研究委員、同編集委員、木簡学会委員、佛教史学会委員、同評議員（現在）などを歴任

《主要研究業績》

【単著】

- 『白山信仰の源流 ―泰澄の生涯と古代仏教―』法蔵館、二〇〇一年十二月
『律令国家仏教の研究』法蔵館、二〇〇五年三月
『古代を創った人びと 推古天皇・聖徳太子』奈良県、二〇一七年三月

【編共著】

- 『富山県の歴史』（新版県史シリーズ）山川出版社、一九九七年八月（深井甚三、久保尚文、市川文彦との共著）
『奈良時代・平安時代初期に於ける山林寺院の実態とその史的意義』（二〇〇〇・二〇〇一年度立命館大学学術研究助成報告書、私家版、二〇〇三年三月）
『和国の教主 聖徳太子』（日本の名僧二）吉川弘文館、二〇〇四年十一月（編著）
『考証 日本霊異記上』法蔵館、二〇一五年三月（監修）
『考証 日本霊異記中』法蔵館、二〇一八年三月（監修）

【共著・雑誌論文】

- 「宝亀年間に於ける僧綱の変容」『史林』六八二、一九八五年三月、『律令国家仏教の研究』に収録
「内供奉十禪師の成立と天台宗」『佛教史学研究』二八一、一九八五年十一月、『律令国家仏教の研究』に収録
「日本古代の王権と仏教」『日本史研究』二九五、一九八七年三月、「古代王権と宗教」（『日本史研究』三六八、一九九三年四月）と併合・補訂し

「律令国家仏教の成立と展開」として『律令国家仏教の研究』に収録

「[国家仏教]と[宮廷仏教]―宮廷女性の役割―」(大隅和雄・西口順子編『信心と供養』(シリーズ女性と仏教三)平凡社、一九八九年一〇月所収) 『律令国家仏教の研究』に収録

「東大寺と国分寺は何のために建立されたか」(『争点日本の歴史三 古代編』新人物往来社、一九九一年一月所収)

「光仁・桓武朝の国家と仏教―早良親王と大安寺・東大寺―」『佛教史学研究』三四―一、一九九一年七月、『律令国家仏教の研究』に収録

「古代王権と宗教」『日本史研究』三六八、一九九三年四月、「日本古代の王権と仏教」(『日本史研究』二九五、一九八七年三月)と併合・補訂し

「律令国家仏教の成立と展開」として『律令国家仏教の研究』に収録

「行基はどうして大仏造立に協力したのか」(『新視点日本の歴史』三、新人物往来社、一九九三年五月所収)

「道鏡は天皇位をねらったのか」(『新視点日本の歴史』三、新人物往来社、一九九三年五月所収)

「国家仏教と行基」(上横手雅敬監修、井上満郎・杉橋隆夫編『古代・中世の政治と文化』思文閣出版、一九九四年四月所収)

「各地に府中と国分寺の地名があるのはなぜか ―国府と国分寺の設置―」(吉村武彦・池亨・吉田伸之・原田敬一編『日本の歴史を解く一〇〇話』文英堂、一九九四年九月所収)

「行基・鑑真 ―二人は奈良仏教にどのような影響を与えたか―」(吉村武彦・池亨・吉田伸之・原田敬一編『日本の歴史を解く一〇〇人』文英堂、一九九五年九月所収)

「天平期の神仏関係と王権」(門脇禎二編『日本古代国家の展開』下巻、思文閣出版、一九九五年一月所収) 『律令国家仏教の研究』に収録

「古代北陸の宗教文化と交流」(小林昌二編『越と古代の北陸』(古代王権と交流三)名著出版、一九九六年七月所収) 『律令国家仏教の研究』に収録

「古代寺院の機能」(大山喬平教授退官記念会編『日本国家の史的特質 古代・中世』思文閣出版、一九九七年五月所収) 『律令国家仏教の研究』に

収録

「国家仏教と民衆仏教」(井上薫編『行基事典』国書刊行会、一九九七年七月所収)

「仏教伝来」(吉村武彦編『継体・欽明朝と仏教伝来』吉川弘文館、一九九九年一月所収)

「律令国家の仏教政策」(狩野久編『古代寺院』吉川弘文館、一九九九年九月所収)

「律令国家と僧尼集団 ―国家仏教から教団仏教へ―」(藺田香融編『日本仏教の史的展開』塙書房、一九九九年一月所収) 『律令国家仏教の研究』に収録

「立命館大学・アドミッションズオフィスと管轄する入試について」『大学と学生』四三〇、二〇〇〇年十一月

「『元興寺縁起』の再検討 ―仏教公伝戊午年説をめぐる―」(上横手雅敬編『中世の寺社と信仰』吉川弘文館、二〇〇一年八月所収) 『律令国家

仏教の研究』に収録

- 〔奈良仏教と民衆〕（佐藤信編『律令国家と天平文化』（日本の時代史四）吉川弘文館、二〇〇二年九月所収）
- 〔行基と律令国家〕（速水侑編『民衆の導者 行基』（日本の名僧二）吉川弘文館、二〇〇四年四月所収）
- 〔奈良・平安時代の宗教と文化〕（歴史学研究会・日本史研究会編『律令国家の展開』（日本史講座二古代二）東京大学出版会、二〇〇四年六月所収）
- 〔古代寺院の史的特質〕『終末期古墳と初期寺院の造営を考える 古市古墳群終焉後の藤井寺とその周辺』（ふじいでらカルチャーフォーラム一〇）藤井寺市教育員会事務局、二〇〇六年三月所収）
- 〔宮廷女性の仏教信仰 ―御願寺建立の史的意義―』（上原真人編『皇太后の山寺』柳原書店、二〇〇七年三月所収）
- 〔興福寺隆盛の陰のプロデューサー―光明皇后―』（週刊仏教新発見02興福寺）朝日新聞社、二〇〇七年七月
- 〔初年次教育高度化の課題〕『大学時報』五六―三二五号、二〇〇七年七月
- 〔聖徳太子は日本仏教の礎を築いたのか』（上田正昭・千田稔編『聖徳太子の歴史を読む』文英堂、二〇〇八年二月所収）
- 〔蘇我馬子と物部守屋 ―仏教受容の可否をめぐる争い―』（鎌田元一編『日出づる国の誕生』（古代の人物二）清文堂、二〇〇九年二月所収）
- 〔御願寺〕再考』（栄原永遠男・西山良平・吉川真司編『律令国家史論集』塙書房、二〇一〇年二月所収）
- 〔立命館大学の入学者選抜〕『立命館高等教育研究』一三、二〇一三年三月
- 〔人文学系大学院の現状と課題〕『現代の高等教育』五五三、二〇一三年七月
- 〔酒と仏と男と女』（日本宗教史懇話会編『日本宗教史研究の軌跡と展望』岩田書院、二〇一四年八月所収）
- 〔古代寺院と学僧』（根本誠二・秋吉正博・長谷部将司・黒須利夫編『奈良平安時代の〈知〉の相関』岩田書院、二〇一五年一月所収）
- 〔大学入学者選抜改革をめぐる課題と展望』（東北大学高度教養教育・学生支援機構編『高大接続改革にどう向き合うか』東北大学出版会、二〇一六年五月所収）
- 〔聖武天皇の生前退位と孝謙天皇の即位〕『日本史研究』六五七、二〇一七年五月
- 〔古代の僧尼と寺院―僧尼令と『日本霊異記』―』（古瀬奈津子編『律令国家の理想と現実』（古代文学と隣接諸学5）竹林舎、二〇一八年九月所収）
- 〔泰澄大師と白山開創〕『越前町織田文化歴史館研究紀要』第三集、二〇一八年三月
- 〔称徳朝神仏関係の再検討―西大寺と八幡弥勒寺―』（立命館史学』四〇、二〇二〇年二月
- 〔小川八幡神社大般若経の歴史的位置付け』（山口英男編『小川八幡神社大般若経調査概報』東京大学史料編纂所特定共同「小川八幡神社大般若経の文化資源化研究」東京大学史料編纂所研究成果報告二〇二一―一三、二〇二二年三月）

「古代の仏教文化の展開」(西山良平・勝山清次編『日本の歴史 古代・中世編』ミネルヴァ書房、二〇二二年六月所収)

「『日本書紀』既戸皇子像の再検討」『立命館文学』六七七、二〇二二年三月

「仏教伝来―倭国は仏教をどのように受容したのか」(岩城卓二・上島享・河西秀哉・塩出浩之・谷川穰・告井幸男編『論点・日本史学』ミネルヴァ書房、二〇二二年八月所収)

「日本仏教の形成―聖徳太子から最澄と空海へ―」『創造する市民』一一七、二〇二二年一〇月

【書評・解説・自治体史、その他】

紹介 佐久間竜著『日本古代僧伝の研究』『史林』六七五、一九八四年九月

古代史部会―大平聡「天平期の国家と王権」、豊島静英「漢代の皇帝崇拜について」、金沢良樹「ヘレニズム国家の王権理念と支配の構造」『歴史学研究』六〇一、一九八九年一二月(歴史学研究会大会古代史部会誌上批判)

『福井県史 通史編一原始・古代』第七章第三節、福井県、一九九三年三月

書評 中井真孝著『日本古代仏教制度史の研究』『史学雑誌』一〇二二二、一九九三年一二月

書評 田村圓澄著『飛鳥・白鳳仏教史』上・下『史学雑誌』一〇三三八、一九九四年八月

『新修亀岡市史 本文編第一巻』第四章第二節・第四節、京都府亀岡市、一九九五年一月

書評 新川登亀男著『日本古代文化史の構想 祖父段打伝承を読む』『史学雑誌』一〇四一四、一九九五年四月

「越中国新川郡大藪開田地図・大荊村墾田地図」(金田章裕・石上英一・鎌田元一・栄原永遠男編『日本古代荘園図』東京大学出版会、一九九六年二月所収)

「越中国新川郡丈部開田地図」(金田章裕・石上英一・鎌田元一・栄原永遠男編『日本古代荘園図』東京大学出版会、一九九六年二月所収)

書評・紹介 本門法華宗大本山妙蓮寺監修・中井堯編『京都妙蓮寺蔵『松尾社一切経』調査報告書』『佛教史学研究』四〇二、一九九七年一二月

書評と紹介 吉田一彦著『日本古代社会と仏教』『日本歴史』六一三、一九九九年六月

書評と紹介 田村圓澄著『古代日本の国家と仏教 東大寺創建の研究』『日本歴史』六二六、二〇〇〇年七月

「座談会「未来形」の大学入試」(川島由夫・田村哲夫・本郷真紹他)『文部科学時報』一四九七、二〇〇一年二月

佐藤次高責任編『歴史学事典 第八巻 人と仕事』神・仏「僧侶」、弘文堂、二〇〇一年二月

「座談会 活発化する高大連携」(桐山昇・赤城靖春・本郷真紹他)『大学時報』五一二八七、二〇〇二年一月

書評と紹介 曾根正人著『古代仏教界と王朝社会』『日本歴史』六五四、二〇〇二年一月

- 本簡学会会編『日本古代木簡集成』（第三章第三節「神祇・仏教」、「経典出納記録」、「物忌・蘇民将来札」）東京大学出版会、二〇〇三年五月
- 「二〇〇二年の歴史学界―回顧と展望―古代・六」『史学雑誌』一一二―五、二〇〇三年五月
- 『近江日野の歴史―自然・古代編』第三章第一節・第三節、滋賀県日野町、二〇〇五年二月
- 『わかさ美浜町誌 第二卷 祈る・祀る』第一章総論、福井県美浜町、二〇〇六年三月
- 『氷見市史 通史編一 古代・中世・近世』富山県氷見市、二〇〇六年三月
- 取材記事「差異知つて己を知ろう 立命館大学教授・本郷真紹さんに聞く」『読売新聞』二〇〇六年三月二二日
- 取材記事「(市岐阜商高の運営移管問題…上) 学校法人立命館・本郷真紹副総長」『朝日新聞』二〇〇七年三月一日
- 『甲賀市史第一卷 古代の甲賀』第三章第二節、滋賀県甲賀市、二〇〇七年二月
- 『山口県史 通史篇 原始・古代』第一編第四章、山口県、二〇〇八年
- 取材記事「[京のご近所さん] (二四) 立命館大 自由な校風 貪欲に学ぶ(連載)」『読売新聞』二〇一一年一月二〇日
書評と紹介 根本誠二著『奈良仏教と密教』『日本歴史』七七三、二〇一二年一〇月
- 「近江の風土記」(立命館大学父母教育後援会公式サイト連載、二〇一八年四月～二〇一九年三月)
- 「山城の風土記」(立命館大学父母教育後援会公式サイト連載、二〇一九年四月～二〇二〇年三月)
- 「摂津の風土記」(立命館大学父母教育後援会公式サイト連載、二〇二〇年四月～二〇二一年三月)
- 「三都近隣諸国の風土記」(立命館大学父母教育後援会公式サイト連載、二〇二一年四月～二〇二二年三月)
- 「三都ゆかりの地域の風土記」(立命館大学父母教育後援会公式サイト連載、二〇二二年四月～二〇二三年三月)

【口頭学会発表(主たるものに限る)】

- 「日本古代の王権と仏教」(一九八六年度日本史研究会大会古代史部会共同研究報告、一九八六年十一月)
- 「古代王権と宗教」(一九九二年度日本史研究会大会古代史部会共同研究報告、一九九二年十一月)
- 「宮廷女性の仏教信仰―御願寺建立の史的意義―」(京都大学大学院文学研究科二世紀COE「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」王権とモニユメント第一八回研究会、二〇〇五年一〇月)
- 「御願寺再考」(京都大学日本史学研究室読史会大会、二〇〇七年十一月)
- 「聖武天皇の譲位・出家」(「歴史と文化 アジア史のなかの日本古代史」国際シンポジウム、二〇一五年九月)
- 「古代寺院と学僧」(佛教史学会例会、二〇一五年一月)

- 「聖武天皇の讓位と出家」(国際シンポジウム 東アジアの国際関係再考―八―一七世紀の自立主体、思想と国際秩序、二〇一五年一〇月)
- 「天皇と出家」再考―宇佐八幡神託と新帝の即位―(日本史研究会古代史部会、二〇一六年三月)
- 「古代国家法会の再検討」(日本宗教史懇話会サマーセミナー、二〇一七年八月)
- 「武則天と光明皇后」(清華大学・立命館大学 国際学術検討会、二〇一八年二月)
- 「称徳王権と神仏関係―西大寺と宇佐・弥勒寺―」(佛教史学会学術大会、二〇一九年二月九日)
- 「小川八幡神社大般若経と古代史・仏教史」(第四二回和歌山地方史研究会大会シンポジウム、二〇二二年三月)
- 「(基調講演) 奈良朝の官大寺―東大寺・西大寺と良弁・道鏡―」(第二〇回ザ・グレイトブッダ・シンポジウム(GBS))「良弁僧正―伝承と実像の間―」(二〇二二年一月九日)

(作成 浅野咲)

